

最優秀賞

未来に生きる者として



原町第三中学校 三年

松 本 さくら

この作品は、第四十三回
少年の主張福島県大会
優秀賞受賞作品です。

みなさんは、「フェアトレード」という言葉を知っていますか？この言葉を私が初めて知ったのは、コンビニエンスストアでチョコレートを手にした時でした。青と黒と黄色の三色でできたマークのついたチョコレートがなぜこんなに高価なのか、私は不思議でなりませんでした。母はマークを指差しながら言いました。

「これはね、世界中の子供達の幸せを願う思いが込められたマークなんだよ。」

調べてみると、フェアトレードとは「公平・公正な貿易」という意味なのだそうです。私達が手にする食品の中には、諸外国において過酷な状況の下、安価で働く十八歳未満の子供達の労働によって作られたものが多くあります。その

うち十五歳未満の子供の数は、なんと世界の子供十人に一人の割合にもなるのです。そうした子供達に安定した賃金を与え、世界中の子供達に平等の幸せを実現させる取組の一つが、このフェアトレードチョコレートなのです。いわゆるこの児童労働問題は、昔から世界中で解決が叫ばれている課題です。私も知識として分かっていたつもりですが、どこか別の世界の話として感じていました。しかし、フェアトレードチョコレートを手にしたことで、先進国とそうではない国の子供たちに格差が生まれている事実を現実のものとして再認識させられたのです。この事実には私にとって大きな衝撃でした。そして非常に悲しいものでした。

不平等や差別が生まれる背景には、自分達だけの利益の

ために他を犠牲にしてもよいといった利己的な考えや、共に幸せになろうとする思いやりの欠如があるからだと思います。しかし、このことは海を渡った遠い国での特別な話ではないのです。皆さんが知っているように、東日本大震災による風評被害や避難した先で受けた偏見、他県の店や駐車場に「福島県民おことわり」と書かれたステッカーが貼られ傷ついた人も存在しました。また、最近では、コロナ差別の問題もあります。目に見えないものへの不安や恐怖が生んだ問題ですが、最たる原因は、やはり、相手の立場に立ち、尊重し合うというかけがえのない心を見失ってしまったからだと思うのです。

しかしその一方で、傷ついた被災者に寄り添い、支援物資や応援メッセージを送ってくださった多くの方の存在も私は知っています。本校では震災後約十年間、富山県の中学校から支援として、お米を送っていただいています。一本ずつ苗を植え、刈り入れまでを生徒自身が行って育てたお米です。昨年度行われた富山県新湊南部中学校とのリモート遠隔交流では、コロナ禍の中、共に頑張ろうという応援メッセージもいただきました。

『『できることをできるだけ』『やれることをやれるだけ』を胸に頑張っています。お互い頑張りましょう。』

「大会の中止や行事の削減で大変な時期ですが夢をあきらめずに頑張りましょう。」

同じ境遇の中にもかかわらず、画面越しに、相手を思いやり、共に幸せに向かって歩んでいこうとする新湊南部中学校の生徒の皆さんの呼びかけに私達は胸が熱くなりました。

そして今、この思いやりの輪を広げようと世界が動き出しています。「誰も置き去りにしない社会」「持続可能な世界」の実現を目指すSDGsの取組です。世界中の様々な立場の人々が話し合い、解決方法を考え二〇三〇年までに達成すべき具体的な目標を示しました。目標達成には、私たち一人一人が様々な諸問題を自分事としてとらえ、フェアトレードチョコレートのように思いを形にしたり、新湊南部中学校の皆さんが見せたように実際に行動をしたりしていくことが大切です。

そのためにも、今の社会や世界で何が課題となっているのかを知り、一人一人が具体的に行動することが何よりも大事なのでしょう。

人と人とお互いを尊重し合い、対等に関わり合っている未来の社会。わたしが生きる未来がそういう世界であったならうれしい。二〇三〇年には社会の主役になっている

私たちが、果たすべきミッションの達成に向け、まずは自分の日常を振り返り、できることを一緒に考えていきませんか。

